

“日本新世紀” 日本株インカム・ファンド

追加型投信 / 国内 / 株式

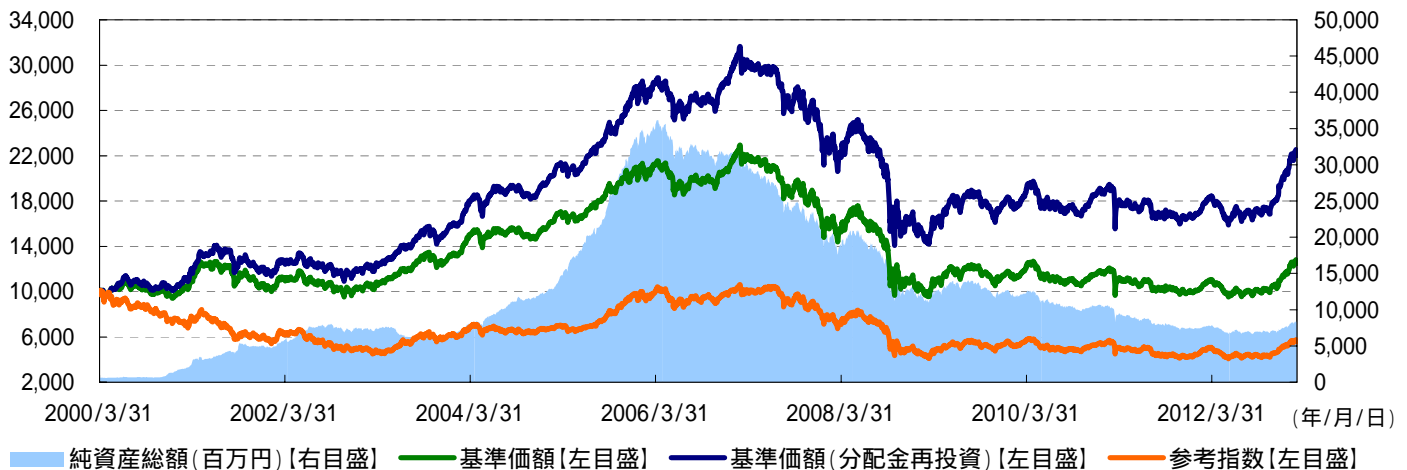
【“日本新世紀” 日本株インカム・ファンド】の運用状況と日本株の今後の投資環境】

【運用状況】過去3年間の基準価額は27.80%の上昇

過去3年間(2013年2月末現在)の当ファンドの基準価額(分配金再投資)は27.80%の上昇となりました。設定来(2013年2月末現在)で見ても、当ファンドの基準価額(分配金再投資)は124.31%の上昇となっています。当ファンドはモーニングスター社のMorningstar Award “Fund of the Year 2012” 最優秀ファンド賞【国内株式型 部門(対象ファンド数:678本)】を受賞しました。これは、中長期での良好な運用実績に加えて、リスクに見合った効率の良い運用、長い運用実績において培われた運用ノウハウおよび銘柄組入れ基準、充実したリサーチ体制などが評価されたものであります。

過去1年間(2013年2月末現在)では、「みずほフィナンシャルグループ」、「リコー」、「科研製薬」などが寄与した結果、基準価額(分配金再投資)は26.02%の上昇となりました。過去1年間につきましても、これまでと同様、ファンドの基本方針に従いながら、助言契約を結んだ三菱UFJ信託銀行(株)の充実した企業調査レポートをベースに、三菱UFJ投信(株)株式運用部国内株式第2グループの経験豊富なファンドマネージャー兼アナリストが業種を分担し、徹底したボトムアップリサーチを続けてきました。

基準価額の推移 (期間:2000年3月31日(設定日)～2013年2月28日)



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)、参考指数は設定日前営業日を10,000として指数化しています。
- ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率1.575%(税抜1.5%))控除後の値です。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ・参考指数は東証株価指数(TOPIX)です。

騰落率 (2013年2月28日現在)

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
当ファンド	3.78%	24.86%	34.33%	26.02%	27.80%	124.31%
(参考指数) 東証株価指数(TOPIX)	3.77%	24.85%	33.35%	16.71%	9.12%	-43.03%
超過収益率(-)	0.01%	0.01%	0.98%	9.31%	18.68%	167.34%

- ・ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。
- ・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

標準偏差(年率) (2013年2月28日現在)

	過去1年	過去3年	設定来
当ファンド	18.18%	15.43%	15.93%
(参考指数) 東証株価指数(TOPIX)	21.52%	19.41%	18.16%

- ・上記は月次変化率の標準偏差をそれぞれ年率換算することにより計算しています。標準偏差はデータのばらつき具合を示す指標で、数値が大きいほどばらつき具合が大きいことを示します。・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
- ・上記グラフ・表は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ・本見通し分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。
- ・東証株価指数(TOPIX)については2ページをご覧ください。

後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

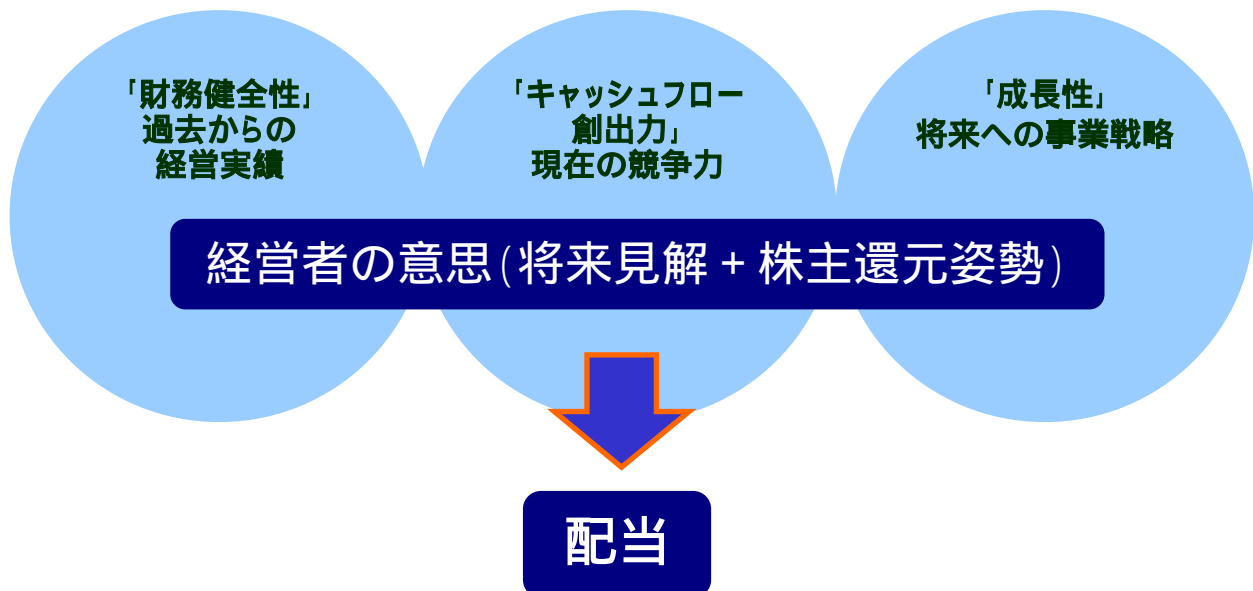
“日本新世紀” 日本株インカム・ファンド

【今後の投資環境】高配当利回り株への投資は引き続き魅力的

長期債利回りが依然低水準にあるため、日本株式の予想配当利回りに対する魅力度は引き続き高く、また全般的な傾向として市場環境が不透明な局面でも株主還元を重視する姿勢に大きな変化はないと考えています。今後についても、欧州債務問題による世界経済への懸念など不安要因が拭いきれない状況は続くと思われ、特定の成長分野での業績伸長が期待される企業や積極的な事業構造改革等で収益力を回復させた企業においては、さらに株主還元を強化していくものと想定しています。

2012年11月半ば以降、安倍政権への期待などにより上昇した国内株式市況ではありますが、中長期的には、引き続き、財務健全性、キャッシュフロー創出力、持続的な成長力などが、個別銘柄選択においては重要であると考えています。当ファンドでは、配当は、企業の財務健全性、キャッシュフロー創出力、成長性などをベースに、企業経営者の意思(将来見解+株主還元姿勢)が確認出来る重要な財務指標であり、増配または高配当を維持する企業への選別投資によって、高水準の配当収入だけではなく、中長期的に株価上昇が期待される銘柄への投資が実現出来ると考えています。

今後も企業調査を十分に行い、予想配当利回りの高い銘柄を中心に投資し、「高水準の配当収入」と「中長期的な株価の値上がり益」の獲得をめざす基本方針を継続します。加えて、財務の健全性や株式の流動性に留意しながら、保有銘柄の比率調整や新規銘柄の組み入れを行います。基本方針に重きを置いた運用を引き続き行いパフォーマンス向上に向けて努めてまいります。



Morningstar Award “Fund of the Year 2012”

最優秀ファンド賞受賞【国内株式型 部門】



Morningstar Award “Fund of the Year 2012”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的財産権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びに Morningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2012年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。国内株式型部門は、2012年12月末において運用期間1年以上の当該部門に属するファンド678本の中から選考されました。

【当資料で使用した指数について】

東証株価指数(TOPIX)

東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

本見通し不利益分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

“日本新世紀” 日本株インカム・ファンド

ファンドの目的・特色

当ファンドは、わが国の株式を実質的な主要投資対象とする投資スタイルの異なる5つのファンドで構成される「日本株セレクト・オープン “日本新世紀”」を構成するファンドの1つです。

ファンドの目的

わが国の株式を主要投資対象とし、配当利回りが市場平均を上回る銘柄の中から、株価の値上がり益が期待できる銘柄を厳選して投資することにより、高水準の配当収入と中長期的な値上がり益の獲得をめざします。

ファンドの特色

- ・わが国の株式を主要投資対象とします。
- ・配当利回りが市場平均を上回る銘柄の中から、株価の値上がり益が期待できる銘柄を厳選して投資することにより、『高水準の配当収入』と『中長期的な値上がり益』の獲得をめざします。
- ・年2回の決算時(6・12月の各10日(休業日の場合は翌営業日))には配当収入・売買益などから収益分配を行います。組入銘柄の株式配当金が少額の場合、株式売買損が発生した場合等には分配金が少額となることや分配を行えない場合があります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

< 主な投資制限 >

- ・株式への投資割合に制限を設けません。
- ・同一銘柄の株式への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ・デリバティブの使用はヘッジ目的に限定します。

投資リスク

基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。
したがって、投資者のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。
投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

市場リスク

(価格変動リスク)

一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。

信用リスク

組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または払払い・償還金の支払いが滞ることがあります。

流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

(ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

委託会社(ファンドの運用の指図等) 三菱UFJ投信株式会社
受託会社(ファンドの財産の保管・管理等) 三菱UFJ信託銀行株式会社
販売会社(購入・換金の取扱い等) 後記の各照会先でご確認いただけます。

設定・運用 ...三菱UFJ投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

“日本新世紀” 日本株インカム・ファンド

投資リスク

その他の留意点

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- 投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- 収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

リスクの管理体制

ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部門から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。

手続・手数料等

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ファンドの基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
購入代金	販売会社の定める期日までに販売会社指定の方法でお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位（ただし、1万口を上回らないものとします。） 販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受け付けた購入・換金のお申込みを当日のお申込み分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みには制限を設ける場合があります。 なお、1億口または1億円以上の換金のお申込みについては正午までをお願いします。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することおよびすでに受け付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消すことがあります。
信託期間	2019年12月10日まで（2000年3月31日設定）
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰り上げて償還となる場合があります。
決算日	毎年6・12月の各10日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年2回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上、株式投資信託として取り扱われます。
スイッチング	「日本株セレクト・オープン“日本新世紀”」（当ファンドを含む複数ファンドで構成されています。）を構成するファンド間でスイッチング（「日本株セレクト・オープン“日本新世紀”」を構成する他のファンドの換金代金をもって換金のお申込みを受付けた日にファンドの購入のお申込みを行うこと）が可能です。スイッチングを行う場合の手続・手数料等は購入・換金の場合と同じです。 販売会社によっては、スイッチングの取扱いを行わない場合があります。詳しくは、販売会社にご確認ください。

“日本新世紀” 日本株インカム・ファンド
手続・手数料等
ファンドの費用・税金
・ファンドの費用
【お客さまには以下の費用をご負担いただきます。】
お客さまが直接的に負担する費用
購入時

購入時手数料	購入価額 × 3.15% (税抜 3%) (上限) 販売会社にご確認ください。
--------	---

換金時

信託財産留保額	ありません。
---------	--------

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用
保有期間中

運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額 × 年1.575% (税抜 年1.5%)
------------------	-----------------------------------

その他の費用・ 手数料	売買委託手数料等、監査費用等を信託財産からご負担いただきます。 これらの費用は運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。
----------------	--

運用管理費用(信託報酬)、監査費用は毎日計上され、毎決算時または償還時に信託財産から支払われます。その他の費用・手数料(監査費用を除きます。)は、その都度信託財産から支払われます。

購入時手数料、運用管理費用(信託報酬)およびその他の費用・手数料(国内において発生するものに限り、)には消費税等相当額が含まれます。

お客さまにご負担いただく手数料等の合計額は、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

・税金

個人受益者については、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の価額から取得費を控除した利益に対して課税されます。なお、法人の課税は異なります。また、税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

当資料のご利用にあたっての注意事項等

投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。/ 販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金に加入していません。/ 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。/ 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認ください。

当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために三菱UFJ投信が作成した資料です。/ 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。/ 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。/ 当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

(ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

お客さま専用
フリーダイヤル  **0120 - 151034**
受付時間 / 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日・12月31日 ~ 1月3日を除く)

< オフィシャルサイト > <http://www.am.muam.jp/>
< モバイルサイト > <http://k.m-muam.jp/a/1/3>
基準価額・分配金をメール配信 (*メール配信対象外ファンドもあります。)



